

## 2. 中世大友府内町跡 第147次調査

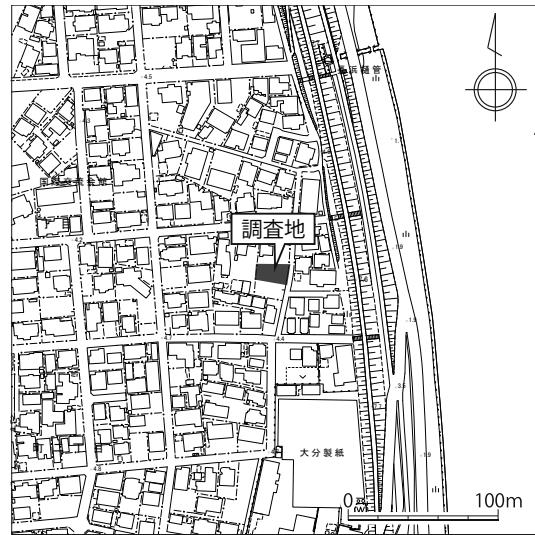
調査面積 27.0 m<sup>2</sup> 調査期間 20.12.9 ~ 20.12.11 地域 A 調査担当 佐藤・山本・伊藤

### 1. 調査地点周辺の状況（第12・13図）

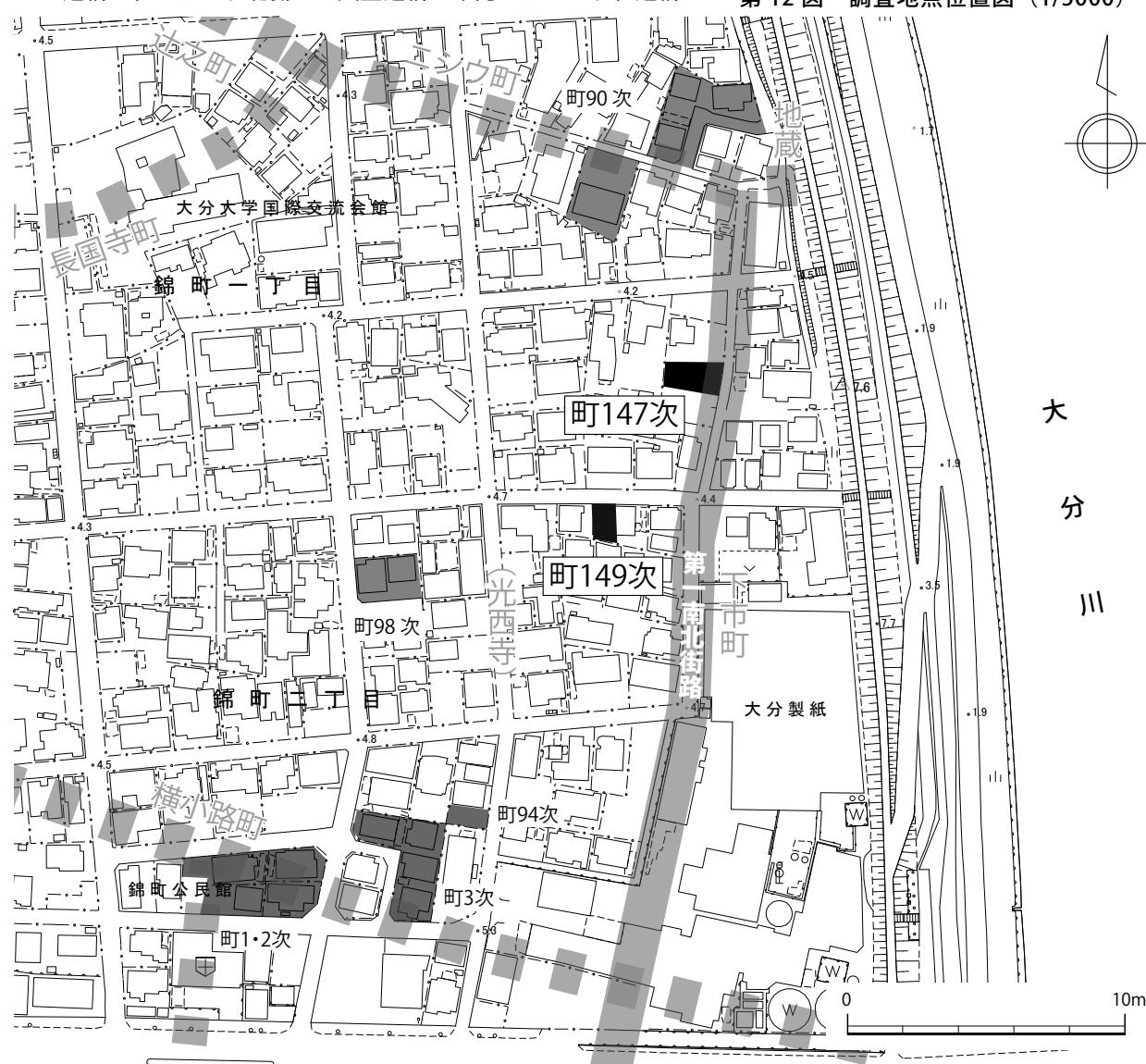
調査地点は、1987年に大分市史編さん委員会が作成した「戦国時代の府内復原想定図」の下市町に位置し、第1南北街路に面する。

近接した地点での調査事例は少なく、周辺では南側において町1、2、3次調査、町94次調査、町98次調査、町149次調査（本概報18頁）、北側においては町90次調査が行われている。

町1・2次は幅約10mを測る東西方向の道路状遺構、町3次では大甕埋設遺構や複数の井戸跡、町94次では複数の井戸跡が検出され、横小路町の東西道路に沿った町屋とその裏手の様相が確認された。町98次調査は中之町に位置し、遺構密度が少なく町屋裏手の空閑地であることが報告されている。町90次は辻之町筋の両側町想定地点で、7カ所のトレンチを設定し調査を行っている。北側の調査区では推定東西道路より15～20m北ではピットを主体とした遺構が、これより北側では大型遺構が確認されており、遺構



第12図 調査地点位置図 (1/5000)

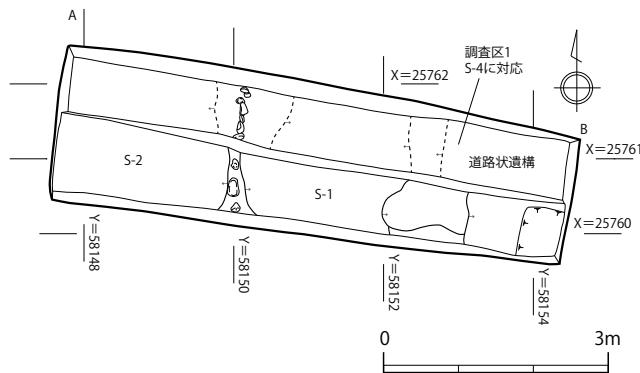


第13図 町147次周辺調査区位置図 (1/2500)

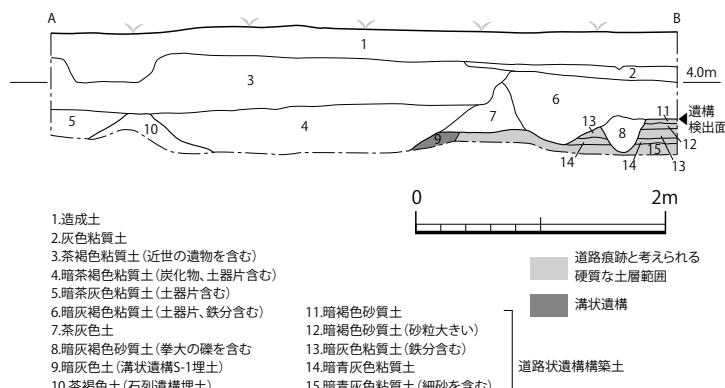


第14図 町147次調査区配置図(1/400)

確認調査 遺構配置図(1:100)



北壁土層断面図(1:60)



第15図 確認調査区1 遺構配置図・土層図(1/100・1/60)

の分布傾向から町屋の表と裏の状況が確認された。

調査区2では、現地表面から約0.5m(検出標高:約3.75m)で遺構面を検出した。主な遺構は、16世紀前半の口クロ目土師器(坏B)が出土した南北方向の溝状遺構(S-5・6 北壁土層断面第5・6層)が2条と柱穴群が検出

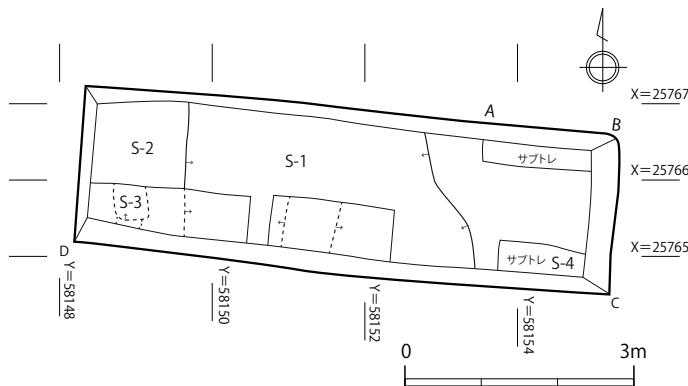
た。

## 2. 調査の概要(第14~17図)

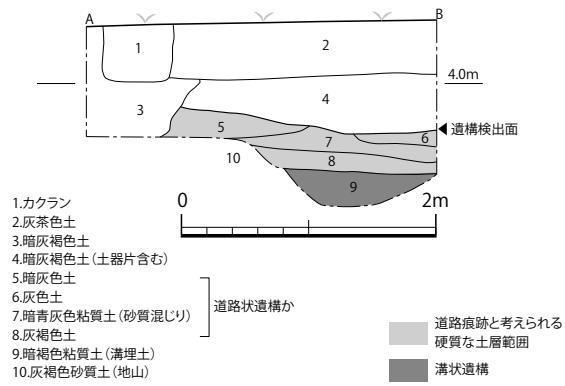
今回の調査は個人住宅建設に伴う調査で、令和2年11月18日に行った確認調査では現地表面から約0.6m下(検出標高:約3.5m)において南北方向の道路状遺構(北壁土層断面第11~15層)と溝状遺構(S-1)、石列(北壁土層断面第10層)を確認した。また溝状遺構と石列は道路状遺構と並行している。遺構検出面からは土師器皿や瓦質土器の擂鉢等が出土し、16世紀代の遺構と考えられ、確認された道路状遺構は第1南北街路の一部の可能性があった。そのため、下市町の状況を把握することを目的に本調査を実施した。

確認調査の成果をもとに敷地の中でも北側に、第147次調査区1・2を設定した。調査区1は確認調査区の北側延長線上に設定し、現地表面から約1.0m下(検出標高:約3.65m)で遺構面を確認した。主な遺構は、15世紀後半の在地系土師器(坏A)が出土した南北方向

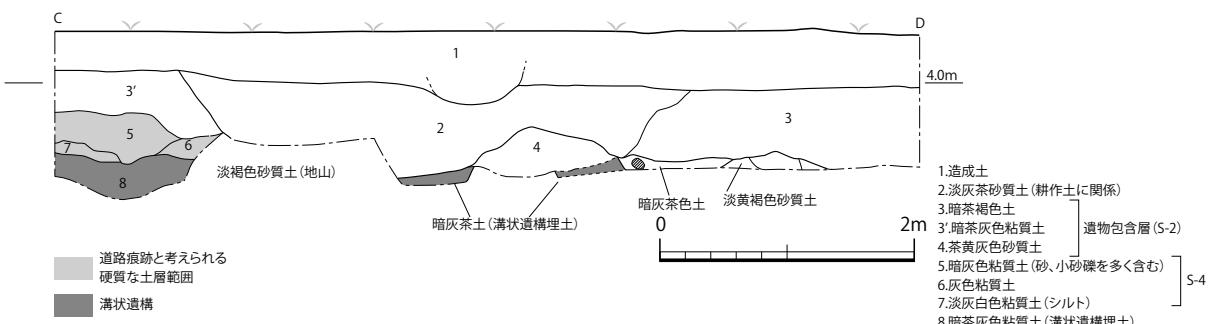
調査区1 遺構配置図(1:100)



調査区1 北壁土層断面図(1:60)

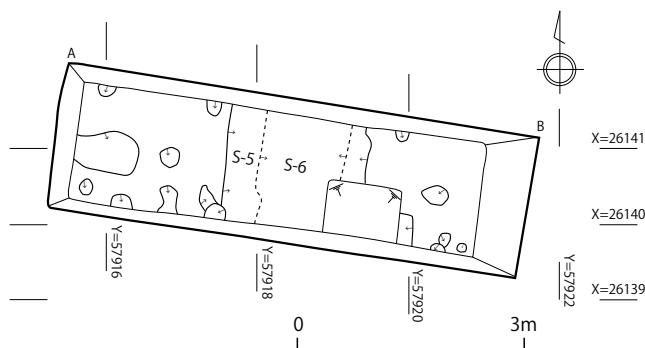


調査区1 南壁土層断面図(1:60)

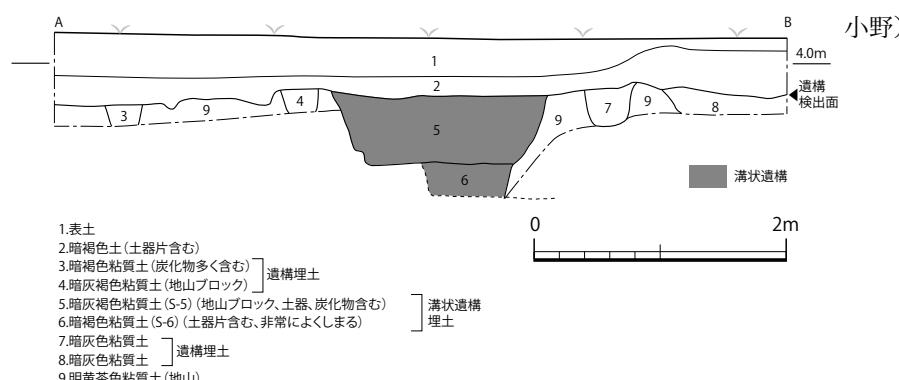


第16図 調査区1 遺構配置図・土層図(1/100・1/60)

調査区2 遺構配置図(1:100)



調査区2 北壁土層断面図(1:60)

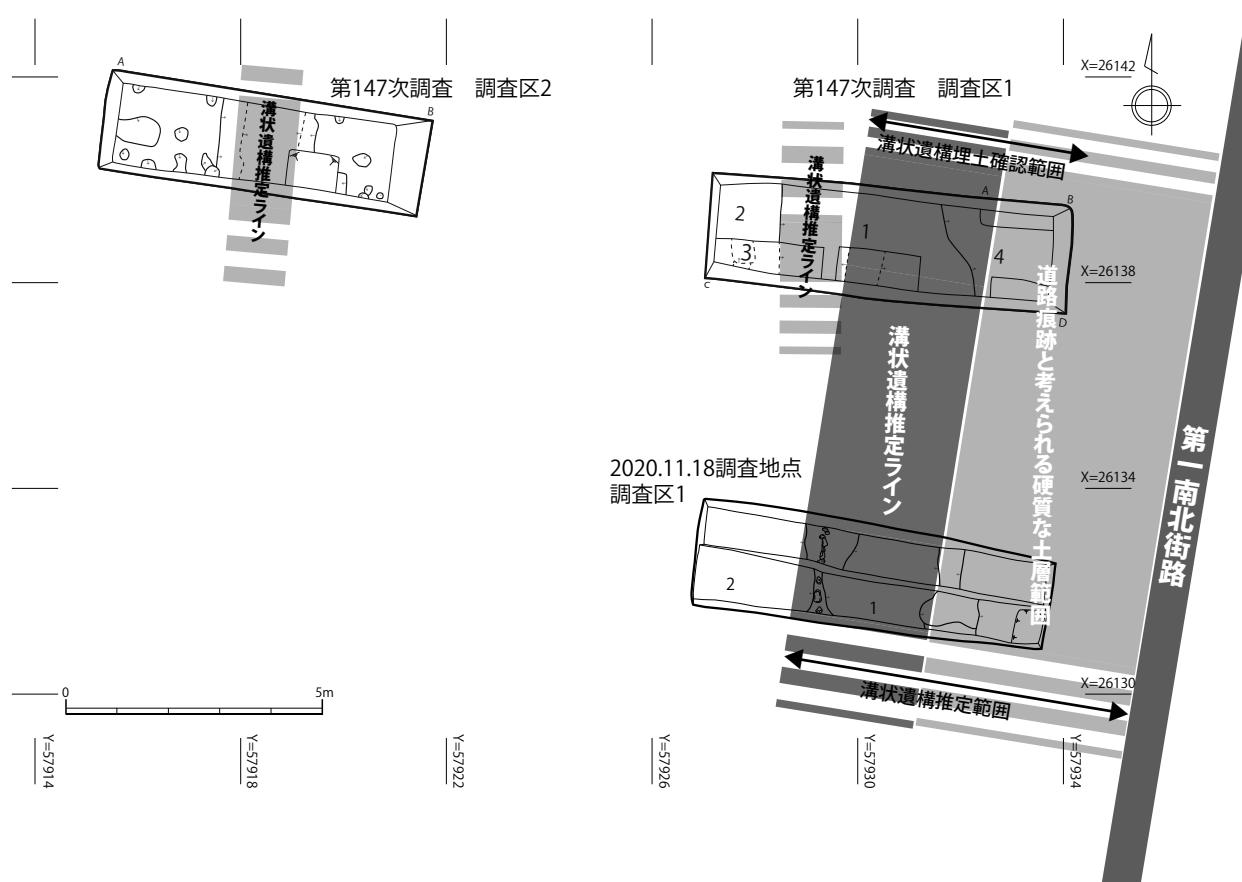


された。

### 3. まとめ(第18図)

今回の調査では下市町を通る街路(通称第一南北街路)の推定地付近で、道路状遺構の痕跡と考えられる硬質土層群を確認できた。また、周辺の調査において道路跡の下面で溝跡を検出する事例が多々認められている。本地点でも硬質土層群の下位において溝状を呈する大きな掘り込みが検出され、同事例を追加できたことも大きな成果といえる。(佐藤・小野)

第17図 調査区2 遺構配置図・土層図(1/100・1/60)



第18図 町147次各施設分布イメージ図 (1:150)



令和4年11月18日実施 遺構検出状況（西より）



令和4年11月18日実施確認調査 北壁土層断面(南より)



調査区1 南壁土層断面（北より）



調査区2 北壁土層断面（南より）